



8月8日所管事務調査の様子

委員会 レポート

総務産業常任委員会 調査報告

地域おこし協力隊の現状について

調査日 令和5年8月8日
令和5年8月9日

清水町の地域おこし協力隊の配置方針と活動状況について、企画課から説明を受け調査を行った。また、鹿追町と新得町を訪問し、各町の配置方針と活動状況について視察を行った。

【調査先での聞き取りや確認事項】

清水町では地域おこし協力隊として、役場内勤務の隊員が3名、畜産支援員として活動している隊員が1名在籍している。また、現在2名の協力隊を募集しているが応募がない状況を確認した。応募がないという課題を整理し、目的を明確にして計画立てた募集を行い、自由に考えてもらえる体制を整えなければならないという課題につ

いて担当課が認識していることを確認した。また、協力隊員からは清水町を選んだ理由として、「交通の便がいいこと」、「農業の町ということで自分の理想と一致した」点があげられ、町の魅力によって応募につながっていることを認識した一方、定着していない理由の一つとしてサポート体制が弱いと感じる面もあるとの意見も聞いた。

また、鹿追町では、募集段階から町の総合戦略の推進として、地域おこし協力隊の制度を活用しながら地域課題解決につながる取り組みを行っており、地域おこし協力隊の活動を町内の企業から広く募集し、その活動を行うために、地域おこし協力隊を研修派遣の形で募集を行っていた。実際に、「鹿追マンゴープロジェクトコンソーシアム」事業と、国際交流センター平成館に出向き、直接活動状況や応募のきっかけ等を聞き取り調査する現地視察を行った。

新得町では、地域おこし協力隊の活用は、新しい事業を推進するために隊員を受け入れたいという企業からの提案により募集を行っており、町と企業が一体となって内容を十分に審査、検討したうえで募集を行っているとの説明を受けた。その一環である北海道拓殖バス株式会社が新しく事業を立ち上げた「拓鉄キノコタン」の取り組みでは、将来的な雇用の創出を目指した事業展開の説明を受け、しいたげ栽培に携わる地域おこし協力隊から業務内容や苦慮している点など、現地にて直接聞き取りを行った。

清水町では、期間終了後にそのまま定住している協力隊員が少ないのが現状であるが、鹿追町においては、募集する際に期間終了後に町内で起業するか、もしくは活動企業において雇用が見通せることを明示し、期間終了後のアフターフォローをしっかりと行う体制を構築していた。また、新得町では、任期満了後に住宅の借上げや働く場所の問題で転出してしまいう隊員を出さないために、任期中からの相談、サポートが重要であるとの認識を持つているということから、定住率が高く推移していると思われる。

【総括】

視察を行った鹿追町、新得町は、地域おこし協力隊の業務について、募集の時から民間の知恵を活用しながら、地域一体で受け入れる体制を構築している。また、協力隊の任期終了後の定住に繋がるように、終了後の相談、サポートを活動中から行っていること、特に地域の企業との情報共有、課題解決に向けての相談を密に行い、新たな起業を目指す隊員の準備やサポートをしていることは本町としても学ぶべき点だと考える。また、協力隊と町民とのふれ合いが生活においては非常に大切であることから、地域での人間関係を構築できる様々な機会を創出していくことも重要であると考える。

清水町でも両町の優れたところを参考に、地域おこし協力隊の活動が地域と隊員の将来にとって、真に役立つものとなるように取り組みを充実していくことが必要と考える。

清水高等学校への支援策の現状について

調査日 令和5年8月21日

清水高等学校では、2年連続定員割れとなった。2026年度までは3学級が維持されるが、その後は予断を許さない状況にある。

そこで、現状の支援内容と今後の課題を探るため、調査を実施した。

【学校教育課】

学校教育課職員より、管内中学卒業者の推移と高校別入学状況、清水高校入学者の出身地別内訳、清水高等学校振興会への支援内容について説明を受けた。

町内の中学卒業者は、令和5年で85名であり、今後令和12年には60名となり、緩やかながら約8%の減少が見込まれる。入学者67名の出身地別内訳では、町内の中学卒

るとの報告を受けた。

【清水高等学校振興会】

次に、振興会理事である学校長より、高校の概況について説明を受けた。

道内の令和5年度の総合学科の高校は19校となっている。系列数は1〜2間口校で3・2系列、3〜4間口校で4系列となっているが、清水高校は4系列と充実している。しかし、今後の教員数の見通しは、令和5年度27名から令和6年度25名、令和7年度以降22名となり、総合学科としての魅力ある科目や系列数を維持できなくなる可能性がある。

そのような状況で新たな対応策として、令和3年度以降、進学希望者が就職希望者を上回っている現状から、進学チャレンジ生徒応援事業を新たに導入するなど支援を強化している。その他には「総合的な探求の時

間」を充実させる教材の導入、令和6年度からはCS(※)を導入予定で、地域連携を強化し、教育資源を開発するとともに主体的な地域活動の推進を目指すなど、活動を拡大している。

また、生徒を主体とする取り組みとして、校則の見直しや体験入学での生徒による説明なども取り入れている。

今後の課題としては、学校見学会の日程を中学校と協議して決めたり、情報発信の工夫やアイスホッケーの支援強化が求められている。

【総括】

親のイメージを子供に伝えてもらうために、町外や町内の保護者への情報発信が必要であるとの意見については、毎週金曜日にFM・JAGGAで生徒が出て高校のPRをしているが、町民への発信はなく、FM・JAGGAのホームページやS

NSには出しているとのことである。周知方法や時間帯の課題があり、SNSの活用や、録音を各中学校の昼休みに放送するなど取り組みをお願いしたい。

また、2間口になると選択科目が一気に減り、魅力が下がり先生も減ることが懸念される。

部活支援については今年度から強化を図っていくとのことであるが、その中で、特にアイスホッケー部に関しては、地方から来ている生徒たちの負担が大きく、今後の支援についての課題とした。

高校関係者との意見交換については、学校見学等を活用して訪ねていただくことは可能であり、連絡いただければとのことであった。

全体を通して、町として、振興会と協議し、教育活動や部活動の充実や発信力の強化に前向き

に取り組む姿勢を鮮明にしている評価できる。

一方で、女子アイスホッケー部の創設を望む声も届いているとのことであり、全国的にも貴重なアイスホッケー部のある道立高校としての存在価値を再認識し、全国から生徒を集めるための支援とPR強化を求めたい。

本町の活性化にとつて、清水高等学校の3間口維持と魅力化は課題であり、町民も含めた町全体を挙げての清水高等学校の前進に向けて、更なる取り組みを望むものである。



8月21日所管事務調査の様子

※…コミュニティスクール